

# 令和2年度 諸塚村立七ツ山小学校 学校関係者評価書

4段階評価【A～期待以上 B～期待どおり C～やや期待を下回る D～改善を要する】

諸塚村立七ツ山小学校

分野・領域	本年度の努力事項	評価の結果				平均	総合平均	学校の自己評価結果	自己 評定	学校関係 者評定	学校関係者評価（意見）
		職員	保護者	地域	児童						
1 学習指導	○複式指導並びに個に応じた指導の工夫・改善	3.0	3.6	3.7	3.9	3.5	3.5	○子ども達の学習意欲は高く、家庭学習等でも努力する姿も見られるので、個に応じた指導をより充実させていく必要がある。 ○「どんこ学習」は、主題研究と関連させて、内容を見直し、充実を図った。学力向上に確実につなげるためには、各学級での継続した取組が必要だが、児童へのアンケートでは、ほとんどの児童がこれからもやってみたいと答えており、意欲が向上している。 ○読書月間には、様々な取組を計画し、児童の読書意欲を向上させることができた。低学年では、読書イベントなどにも関連させながら、毎日図書室に行くことで、読書する機会を増やすことができた。各教科の指導の中でも今後も積極的に図書の利用をしていく必要がある。	A	A	・学力の向上のため様々な取組をしていただいて、先生方に感謝したい。 ・読書活動への取組でも効果が見られている。
	○家庭と連携した家庭学習習慣の確立	3.4	3.6		4.0	3.7					
	○「どんこ学習」を活用した基礎・基本の確実な定着	3.2	3.6		3.8	3.5					
	○読書活動の推進	3.2	3.1		3.7	3.3					
2 現職教育	○主題研究の充実	3.0			3.7	3.4	3.3	○主題研究は、キャリア教育をテーマに、個々で授業実践を積み重ねて、工夫して取り組んでいる。 ○校外研修はコロナ禍の影響もあり、積極的に参加できなかったが、一部の研修はZOOM等を活用して、オンラインで参加した。	B	B	・コロナ禍の中で思うような内容ができなかったと考える。
	○積極的な自主研修の実施	3.5				3.5					
	○校外研修への積極的参加	3.2				3.2					
3 生徒指導	○報告・連絡・相談の徹底	3.5				3.5	3.6	○定期的なアンケート調査や、教育相談、児童の見守り等を全職員で行うことで、児童の問題行動や困り感を解決するための動きができた。 ○気になる児童の学校の様子について適宜保護者に伝える等、連携しながら指導を進めることができた。 ○生徒指導研修や学級担当者会等を通して、児童の情報交換や指導の共通理解を図り、指導に役立てることができた。	A	A	・学校の協力体制により問題行動等が解消されている。 ・いじめの発生件数が0という結果で、子供たちの人間関係が良好なのがよい。 ・児童の挨拶はよくできていると感じる。
	○基本的生活習慣の定着	3.2	3.7	3.7	3.8	3.6					
	○教育相談の実施と充実	3.2	3.9		3.9	3.6					
	○問題行動の早期発見、早期対応と家庭との連携	3.5	3.6		3.8	3.6					
4 道徳・特別活動	○ふるさとを愛する心の育成	3.3	3.6	3.9	4.0	3.7	3.6	○コロナウイルス感染症防止策を取りながら、ふるさと大運動会を実施して、ふるさとを愛する心の育成につなげることができた。 ○ふるさとを大切にしようとする言動が見られるようになった。また、その成果をふるさと学習発表会で披露することができた。 ○道徳的実践力は少しずつではあるが育ってきている。 ○地域クリーン作戦や朝のボランティア活動等、様々な活動に積極的に参加できている。	A	A	・特に問題もなく、学校で工夫されて取り組んでいる様子が伺える。
	○特別の教科道徳の指導法の工夫による道徳的実践力の育成	3.3			3.8	3.5					
	○ボランティア活動参加の推進	3.0	2.9	3.5	3.8	3.3					
	○特色ある教育活動への積極的参加	3.3	3.9	3.9	3.9	3.8					
5 保健安全体育	○安全指導の徹底	3.7	3.7	3.9	3.9	3.8	3.6	○体育科の研究授業を8時間行い、より良い指導の工夫・改善に努め、児童の体力向上につなげることができた。 ○安全点検の結果を元に、危険箇所のチェック及び修繕を行い、危険箇所を児童に伝達したりするなど、職員と連携しながら安全指導を行うことができた。 ○さわやかチェックは、昨年度と比べ、学級や全校でのパーフェクトが多く、意識の高さが見られた。 ○職員と連携しながら、児童の健康課題に応じた手立てや家庭へのアプローチを行った。 ○食事の時の姿勢(立腰)や箸の持ち方等、マナーをふまえた上で、楽しい給食時間を過ごすことができた。	A	A	・マスクをしておの活動が多く大変であったが、目標は達成できているのでよい。 ・コロナ禍の中でも工夫をこらしてこられた事を評議会でも聞いている。大変な中でも懸命な対応をして頂いていると思う。
	○教科体育の充実と体力向上	3.4	3.4		3.8	3.5					
	○健康的な生活の習慣化	3.7	3.7		3.8	3.7					
	○給食指導の充実と衛生管理の徹底	3.3	3.3		3.8	3.5					

分野・領域	本年度の努力事項	評価の結果				平均	総合平均	学校の自己評価結果	自己 評定	学校関係 者評定	学校関係者評価（意見）
		職員	保護者	地域	児童						
6 人権教育	○積極的な関わり	3.0				3.0	2.9	○夏季休業中に人権教育に関する研修を行うことができた。今後も、研修を行い、人権意識の向上に努めたい。 ○具体的指導としては、特に常時指導の中で、一人一人を大切にしようとして人権に留意しながら指導をするようにしてきた。 ○教職員がお互いの指導をもとに交流する機会を増やした。	C	B	・コロナ禍の影響で実施できなかった面もあると思う。今後も、研修等に取り組んでいただきたい。
	○具体的指導の充実	3.2				3.2					
	○研修会や講習会への積極的な参加	2.7				2.7					
7 特別支援教育	○理解を深める研修の充実	3.3				3.3	3.2	○校内研修で職員全体で共通理解をし、児童の支援・指導にあたることができた。また、アクセシブルデザインについて研修を行い、どの児童にとっても安心でわかりやすい授業の充実に努めた。 ○個に応じた指導を充実させるために個別の指導計画や教育支援計画の作成を行った。 ○保護者・地域へは授業参観や発表の機会に子どもの様子を見てもらうことを通して、特別支援教育への理解を深められたらと考えている。	B	B	・ふるさと参観での発表とても感動した。先生と児童の信頼関係がうまく築けていると感じた。 ・ふるさと教育のねらいを子ども達が理解して発表している姿に成長を感じた。
	○個に応じた学習面、生活面の児童への指導の充実	3.0	3.7		3.7	3.5					
	○関係機関との連携等、支援体制の確立	3.2				3.2					
	○保護者、地域への啓発活動の充実	2.3				2.3					
8 情報教育 国際理解 福祉教育 環境教育	○コンピュータ活用による情報活用・処理能力、情報モラルの育成	3.0			3.9	3.5	3.5	○情報モラルの指導を行うとともに、低学年にもコンピュータの操作方法の基礎を指導し、Eラーニング等を活用して自主学習に取り組めるようにした。 ○A L T と積極的にコミュニケーションをもたせる機会を提供してきた。 ○施設訪問はできなかったが、代わりにビデオレターを渡すことができた。 ○九州電力による環境教室等様々な活動の中で、環境について考える機会が増えている。	A	A	・コロナ禍で、リモート学習に取り組んでいる学校もあるので、本校もそういった学習環境を整備してほしい。
	○A L T との交流活動の充実	3.2			4.0	3.6					
	○施設訪問や寿会との交流推進	2.8			3.8	3.3					
	○環境学習の充実	3.2			3.8	3.5					
9 教育環境	○校内美化の推進	3.2	3.9	3.8	4.0	3.7	3.6	○ボランティア活動等を利用して計画的に学校園や学級園の花壇の整備を行った。また、理科や生活科の学習と関連させて苗づくりや除草作業を行い、季節に応じた花を咲かせることができた。 ○親子作業でプール清掃や地域の方と除草作業を行ったり、職員作業でグラウンド整備を行ったりして、環境を整備することができた。 ○閉校に向けて、校内文書等の整理を行う等、校内美化に努めるとともに、備品リストを作成し、引継ができるようにした。	A	A	・自然豊かで、緑も多く、児童が勉学に一所懸命に打ち込める環境となっている。 ・花壇の整備等、学校全体で取り組まれて、整備されている様子が伺えた。
	○学校園、学級園の整備	3.2	3.6	3.6	3.8	3.5					
	○学習環境（コンピュータ室、図書室等）の整備・充実	3.0	3.7	3.7	4.0	3.6					
10 開かれた 学校づくり	○学校だよりや学級通信等による学校の情報の積極的提供	3.5	3.7	3.7		3.6	3.6	○学校便りや、学級通信等で、学校生活の様子を定期的に発行するとともに、ホームページを随時更新して、保護者や地域に発信した。 ○コロナ禍で地域行事等がほとんど自粛となったので、交流する機会が減ったが、感染症対策を行い、地域の方々と協力して、ふるさと大運動会やふるさと参観日を設定して実施することができた。 ○時期を調整しながら、臨海学校や魚のつかみ取り、研修視察等のP T A活動を充実させることができた。	A	A	・七小新聞、ホームページを楽しみにしている。学校の取組、児童の様子を知る機会になり貴重なものである。 ・毎月のお便りで小学校の様子等いろいろなことが分かってよかった。
	○地域との交流や地域人材の活用	3.2	3.7	3.5		3.5					
	○P T A活動への積極的な参加	3.7	3.7	3.9		3.8					
11 学校運営 の適切化	○分掌事務における責任の明確化と効率的な処理	3.3				3.3	3.6	○根気・優気・元気の3つの合い言葉のもと、「あい」にあふれ子どもの立場に立った七小ならではの教育を推進するために、教職員が一丸となって、協力し合いながら様々な教育活動に取り組んだことで、教育効果が高まった。 ○コンプライアンス研修を実施して、法令順守や地域貢献といった教職員の意識向上に努めるとともに、「風通しのよい職場づくり」の推進のために意見交換を行い、一層の連携を確認した。	A	A	・コロナ禍で自粛、規制される中で七小を中心とした地域住民との交流はとてもあたたかみのあるものだと感じた。 ・全体的にA評価なので学校の適正化という面でもよかったのではないかな。
	○各組織の連携強化	3.7				3.7					
	○教職員としての自覚と子どもたちや教育への愛情・情熱	3.8				3.8					